

大分県内には全国的に有名な別府、湯布院をはじめ、星の数ほど温泉地がある。関サバ、関アジなど美味なるものも枚挙にいとまがない。同県では社会福祉基本計画にUDを盛り込むとともに、海の幸、山の幸に恵まれた豊かな自然風土を生かして、UDツーリズムを推進している。

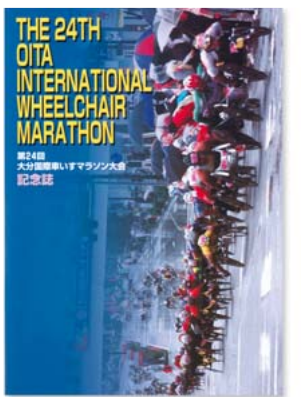


ひろせ かつただ ●1942年、大分県日田市生まれ。1966年、東京大学法学部卒業後、通商産業省（現経済産業省）入省。内閣総理大臣秘書官、通商産業省貿易局長、事務次官を歴任後、2002年に退官。2003年4月より現職

## 海の幸、山の幸に恵まれた 自然風土を生かして UDツーリズムに力を注ぐ

大分県知事 **広瀬勝貞**さん

聞き手 **梶本久夫** 本誌編集長



大分県が推進する「大分国際車いすマラソン」の記念誌



「ごみゼロおおいた作戦」には多数の団体・企業・個人が参加している

### UDは思いやりを地域社会に広げる推進力

県庁内にユニバーサルデザイン検討委員会を設置した理由は何ですか。

**広瀬** これからの福祉の潮流は、施設から地域へ、です。そのためには年齢や障害のあるなしにかかわらず、できるだけ多くの人がそれぞれの家庭や地域で暮らすことができる社会が望まれます。自助・共助・公助のバランスをどのようにとっていくかが、重要な課題になっていくでしょう。

お年寄りのいる家庭の中には、ごはんを柔らかめに炊いたり、階段に手すりをつけたりしますが、そのような家庭の思いやりを地域社会全体へと広げていくための推進力として、われわれはユニバーサルデザインをとらえています。

社会福祉法に基づき策定された「大分県民福祉基本計画」を立案するに当たり、ユニバーサルデザイン検討委員会を庁内に置いた理由はこれです。

現在進行中の大分駅連続高架事業や周辺整備に関して、大分市等と調整しながらユニバーサルデザインを取り入れていくための事務局を設けています。

### 保育園の通園費用を 2人目から半額、3人目から全額補助

やがて団塊世代が高齢期を迎えると、これまでの高齢者像をくつがえす健康で活力ある高齢者がたくさん生まれます。このような人口動態に関する

### 知事のお考えと少子高齢化に関する具体的な取り組みを教えてください。

**広瀬** 大分県の高齢化率は全国平均を上回る約24%です。未曾有の超高齢社会を迎えるわが国にあって、近未来を先取りしている数字といえるでしょう。

介護を要する高齢者は約2割で、残りの約8割は地域社会で活躍していただける元気な高齢者です。高齢社会も悪くないという視点で、彼らの知恵や経験を生かす仕組みづくりに注力しているところです。

元気な高齢者に対するさまざまな施策を講じており、健康づくりに加えて、例えば生涯学習講座では趣味に関する多様な講座の他に、地域社会で活動するために必要



少子化対策の一環として、県立病院に周産期母子医療センターを設置





中世の荘園の遺構がそのまま残る田染荘の美しい田園風景（豊後高田市）

われわれが誇れるもののひとつに「大分国際車いすマラソン」がありますが、世界的な障害者スポーツイベントとなったこの大会には世界中からアスリートや関係者が大挙して押し寄せます。昨年、開会式をこれまでのスタジアムから商店街に移したことで、市民の注目度も増しました。

このようなさまざまな試みを通じて、安心して活力にあふれ、発展性のある郷土が少しずつ形づくられていくのだと確信しています。ユニバーサルデザインは、このような施策を展開するうえでの基本的な考え方になることでしょう。



「ごみゼロおおいた作戦」は美しい郷土を守るための県民運動



コミュニティビジネスの担い手は地域の女性たち



地域の食材を利用した弁当業もコミュニティビジネスのひとつ



大分県内には多数の温泉地がある。写真は八つの源泉をもつ別府の湯煙

な基礎知識を習得するための講座も設けています。少子化に関しては、子どもは欲しいが経済的にたいへんだからあきらめる夫婦もいるのではと考え、保育園の通園費用を2人目は半額、3人目からは全額補助しています。これは認可外の保育園へも同様です。県立病院に周産期母子医療センターを設置し、不妊治療にも補助を出すなど、社会全体で子育てを応援しているようにしています。

### 豊かな自然を守る「ごみゼロおおいた作戦」

**知事は「安心・活力・発展」を県政推進のキーワードに掲げていますが、めざすものは何ですか。また長期政権であった平松県政をどのようにお考えですか。**

**広瀬** 心豊かに暮らせて、一生懸命が報われる発展可能性のある地域社会の構築がめざすものです。

豊かな天然自然を守るために環境問題にも注力しており、ゴミをなくすための県民運動である「ごみゼロおおいた作戦」は大きな成果が上がっています。環境問題への対応が新しいビジネスを生み出す可能性も否定できません。

産業振興にも力を入れています。今は農林水産業の変革の時もあり、新しいビジネスということでは農村や漁村から新たなコミュニティビジネスが生まれています。農村、漁村はもともと女性の力が重要な役割を果たしていますから、コミュニティビジネスの担い手にも多くの女性がいいます。

### 多様な人々をターゲットとしたUDツーリズムに力を注ぐ

**県営施設のネーミングライツ（命名権）を売り出すなど、独自の施策が注目されていますが、大分県が特に注力していく分野はありますか。**

**広瀬** 大分県は今、行財政改革の真っ最中です。そのひとつとして公営施設の運営管理費を軽減する目的で、総合文化センターのネーミングライツを売り出したところ、県内に本社を置く、「いいちこブランド」で有名な（株）三和酒類さんが立候補してくれました。この会社はもとも文化事業に積極的です。文化の香りが豊かであるという企業イメージは、女性の消費者にうけるはず。総合文化センターは「iichiko総合文化センター」と名付けられましたが、そのロゴマークの表示は近づかなければ気づかないほど小さく、これも企業姿勢の表れでしょうか。

サッカーのJ1大分トリニータのホームスタジアム「ビックアイ」のネーミングライツも募集しています。行政ニーズが多様化する今日、それに応えていくためには企業の知恵を使わない手はないでしょう。

ユニバーサルデザインに注力する分野としては、まちづくりにも直結するツーリズムが挙げられます。大分県は海の幸、山の幸に恵まれており、温泉地は数えきれないほどです。すでに別府の温泉組合や湯布院でも、温度差はあれ、ユニバーサルデザインの取り組みが行われていますが、これを全県に広げていこうと考えています。